

ASEAN・インド月報

（2020年9月）

目次

■ASEAN・インドのマクロ経済動向

インドネシア	1
マレーシア	2
フィリピン	3
シンガポール	4
タイ	5
ベトナム	6
インド	7

1. インドネシア

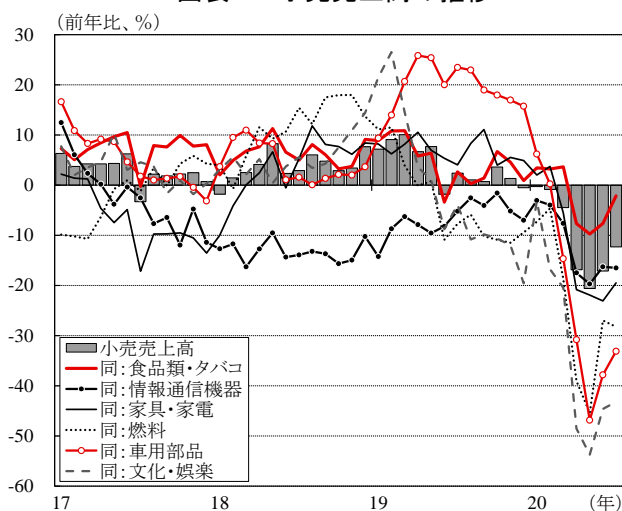
7月の小売売上高は前年比▲12.3%の減少

7月の小売売上高（調査回答者による実績見込み）は前年比▲12.3%と、前月（実績値、同▲17.1%）からマイナス幅は縮小したものの、8ヵ月連続の前年割れとなった。品目別にみると、すべての主要品目が減少したが、シェアが大きい食品類・タバコは比較的縮小幅が小さかった。他方、文化・娯楽や車用部品、燃料等は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた活動制限等を背景に大幅な落ち込みが続いた。

4-6月期の経常収支は赤字幅が縮小

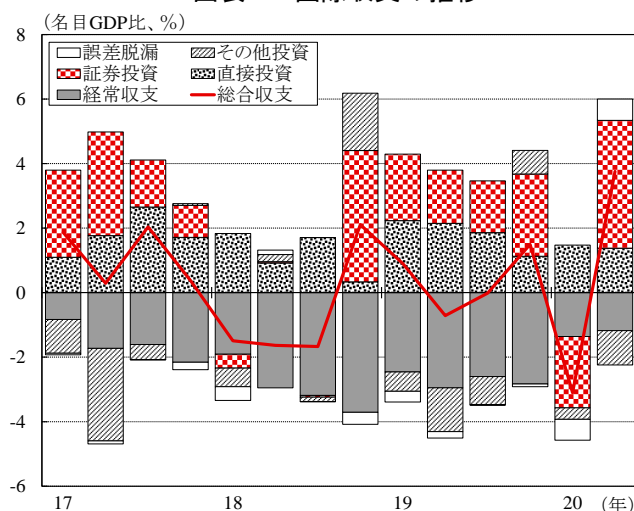
4-6月期の経常収支は29億ドルの赤字（同四半期の名目GDP比▲1.2%）となり、赤字幅は前期の37億ドル（同▲1.4%）から縮小した。内訳をみると、財収支と第二次所得収支の黒字幅が縮小し、サービス収支の赤字幅が拡大した一方、第一次所得収支の赤字幅が縮小した。金融収支は、その他投資の流出超過が続いた一方、直接投資が引き続き流入超過だったほか、証券投資が流入超に転じた。結果、総合収支はプラス転じた。

図表 1：小売売上高の推移



(資料) インドネシア中央銀行統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

図表 2：国際収支の推移



(資料) インドネシア中央統計局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

インドネシアの主要経済指標

	2017	2018	2019	19/7-9	10-12	20/1-3	4-6	20/5	6	7	8
名目GDP(10億ドル)	1,016	1,042	1,119								
人口(100万人)	261.4	264.2	266.9								
1人あたりGDP(ドル)	3,886	3,945	4,193								
実質GDP成長率(前年比、%)	(5.1)	(5.2)	(5.0)	(5.0)	(5.0)	(3.0)	(▲5.3)				
鉱工業生産指数(前年比、%)	(4.3)	(4.5)	(4.0)	(4.3)	(3.6)						
国内自動車販売(台)	1,077,365	1,151,284	1,030,126	272,997	275,032	236,890	24,042	3,551	12,623	25,283	
(前年比、%)	(1.4)	(6.9)	(▲10.5)	(▲9.9)	(▲6.7)	(▲6.9)	(▲89.4)	(▲95.8)	(▲78.8)	(▲71.7)	
消費者物価指数*(前年比、%)	(3.8)	(3.2)	(2.8)	(3.0)	(2.7)	(2.9)	(2.3)	(2.2)	(2.0)	(1.5)	(1.3)
輸出(FOB)(100万ドル)	168,828	180,013	167,683	43,580	43,255	41,761	34,627	10,454	12,009	13,703	
(前年比、%)	(16.3)	(6.6)	(▲6.8)	(▲7.5)	(▲4.0)	(1.2)	(▲12.5)	(▲29.1)	(2.1)	(▲10.1)	
輸入(CIF)(100万ドル)	156,986	188,711	171,276	43,951	44,606	39,169	31,734	8,439	10,760	10,464	
(前年比、%)	(15.7)	(20.2)	(▲9.2)	(▲11.6)	(▲10.7)	(▲5.0)	(▲23.5)	(▲42.2)	(▲6.4)	(▲32.6)	
貿易収支(100万ドル)	11,843	▲8,699	▲3,593	▲371	▲1,352	2,592	2,893	2,016	1,249	3,238	
経常収支(100万ドル)	▲16,196	▲30,633	▲30,376	▲7,491	▲8,096	▲3,749	▲2,896				
外貨準備高(除く金)(100万ドル)◎	126,857	117,425	125,339	120,568	125,339	116,875	127,236	126,211	127,236		
7日物リバースレポレート ◎	4.25	6.00	5.00	5.25	5.00	4.50	4.25	4.50	4.25	4.00	4.00
為替(ルピア/ドル)*	13,381	14,236	14,143	14,124	14,063	14,228	14,894	14,852	14,105	14,533	14,675
株価指数 ◎	6,355.7	6,194.5	6,299.5	6,169.1	6,299.5	4,538.9	4,905.4	4,753.6	4,905.4	5,149.6	5,238.5

(注)*印: 期中平均値、◎印: 期末値。

(資料) インドネシア中央銀行、CEIC、Bloomberg等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. マレーシア

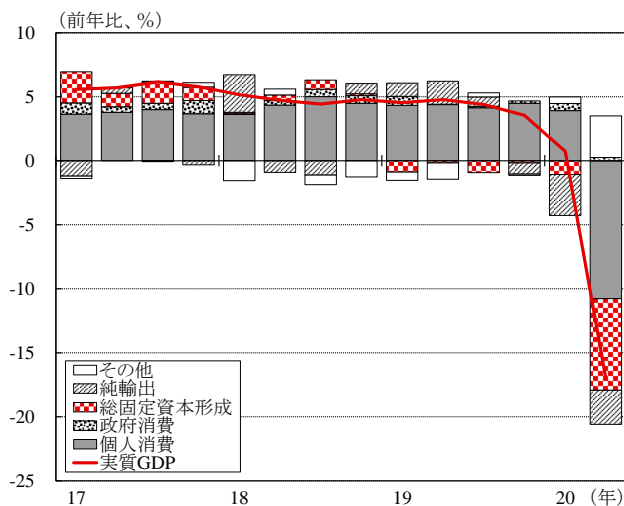
4-6 月期の実質 GDP 成長率は前年比▲17.1%の減少

4-6 月期の実質 GDP 成長率は前年比▲17.1%と現行統計で遡れる 1988 年以降で最大の落ち込みとなった。内需は、政府消費が同+2.3%と前期から伸びが鈍化しつつも増勢を維持したが、新型コロナウイルスの感染拡大による悪影響を受け、個人消費や総固定資本形成が二桁の減少となった。外需も、海外経済の制限・縮小等を背景とする輸出の減少を主因に、純輸出の寄与が引き続きマイナスとなった。

6 月の雇用者数は前月比+10 万人とプラス転化

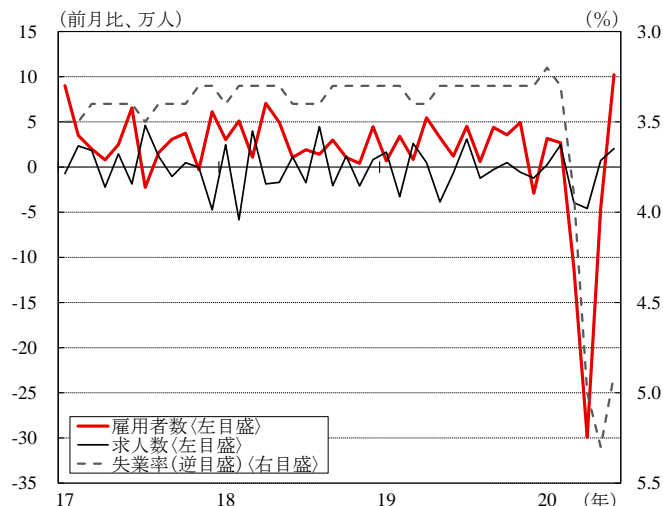
6 月の雇用者数は前月比+10 万人と4ヵ月ぶりにプラス転化した。また、同月の求人数は2ヵ月連続で増加したほか、失業率も下落に転じており、雇用環境には底打ちの兆しがみられる。

図表 1：実質 GDP の推移



(資料) マレーシア統計局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

図表 2：雇用者数・求人数・失業率の推移



(資料) マレーシア統計局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

マレーシアの主要経済指標

	2017	2018	2019	19/7-9	10-12	20/1-3	4-6	20/5	6	7	8
名目GDP(10億ドル)	320	359	365								
人口(100万人)	32.0	32.4	32.6								
1人あたりGDP(ドル)	9,985	11,082	11,196								
実質GDP成長率(前年比、%)	(5.8)	(4.8)	(4.3)	(4.4)	(3.6)	(0.7)	(▲17.1)				
鉱工業生産指数(前年比、%)	(4.4)	(3.1)	(2.3)	(1.6)	(1.2)	(0.4)	(▲17.9)	(▲21.6)	(▲0.4)		
自動車販売台数(台)	576,625	598,598	604,284	146,668	161,296	105,533	67,796	22,960	44,695	57,552	
(前年比、%)	(▲0.6)	(3.8)	(0.9)	(▲11.2)	(12.2)	(▲26.2)	(▲55.8)	(▲62.2)	(5.0)	(13.2)	
消費者物価指数(前年比、%)	(3.8)	(1.0)	(0.7)	(1.3)	(1.0)	(0.9)	(▲2.6)	(▲2.9)	(▲1.9)	(▲1.3)	
輸出(FOB)(100万ドル)	217,773	248,687	240,232	59,932	62,014	57,146	48,689	14,431	19,370	21,695	
(前年比、%)	(14.7)	(14.2)	(▲3.4)	(▲2.6)	(▲3.1)	(▲2.5)	(▲18.4)	(▲28.9)	(5.1)	(▲0.3)	
輸入(CIF)(100万ドル)	194,795	217,984	205,037	51,314	53,182	48,300	42,254	12,038	14,493	15,799	
(前年比、%)	(15.6)	(11.9)	(▲5.9)	(▲7.4)	(▲3.8)	(▲0.8)	(▲18.5)	(▲33.2)	(▲8.1)	(▲11.7)	
貿易収支(100万ドル)	22,978	30,703	35,196	8,618	8,832	8,846	6,435	2,392	4,877	5,896	
経常収支(100万ドル)	8,962	8,028	12,297	2,903	1,801	2,274	1,748				
外貨準備高(除く金)(100万ドル)	100,878	99,850	101,726	101,143	101,726	99,705	101,200	100,960	101,200	102,073	
銀行間3ヵ月金利(%)*	3.44	3.69	3.35	3.38	3.35	2.80	2.28	2.29	2.28	2.01	1.98
為替(リンギ/ドル)*	4.2994	4.0349	4.1419	4.1654	4.1638	4.1800	4.3229	4.3414	4.2756	4.2651	4.1869
株価指数◎	1,796.8	1,690.6	1,588.8	1,583.9	1,588.8	1,350.9	1,501.0	1,473.3	1,501.0	1,603.8	1,525.2

(注)*印：期中平均値、◎印：期末値。

(資料) マレーシア中銀、CEIC等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. フィリピン

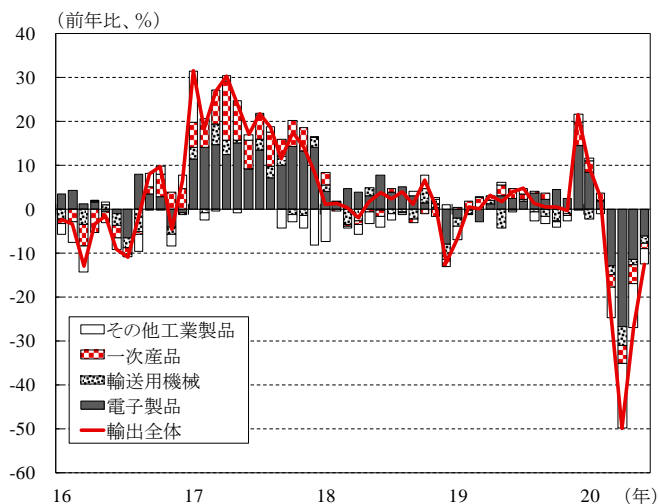
6月の輸出は前年比▲12.5%の減少

6月の輸出は、前年比▲12.5%とマイナス幅は縮小しているものの、4ヵ月連続で前年割れとなった。品目別にみると、全体の約6割を占める電子製品が4ヵ月連続で二桁のマイナスになったことに加え、輸送用機械、一次産品等も減少が続いている。

6月の海外労働者送金は前年比+7.7%とプラス転化

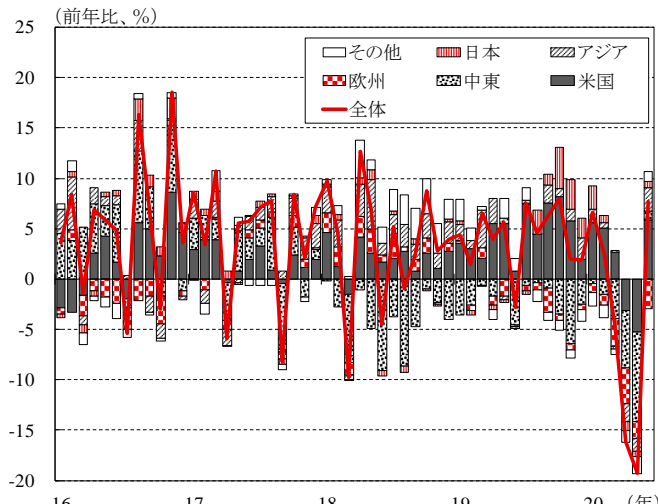
6月の海外労働者送金は、前年比+7.7%と4ヵ月ぶりにプラスに転化した。地域別では、欧州のマイナス幅は拡大したものの、米国、アジア、中東、日本がプラスに転じた。世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受けて海外労働者の失業が増加したことにより海外労働者送金の減少が続いていたが、各国が経済活動を段階的に再開し始めたことから増加に転じたと考えられる。

図表 1：輸出の推移



(資料) フィリピン国家統計局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

図表 2：海外労働者送金の推移



(資料) フィリピン中央銀行統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

フィリピンの主要経済指標

	2017	2018	2019	197-9	10-12	20/1-3	4-6	20/5	6	7	8
名目GDP(10億ドル)	314	331	359								
人口(100万人)	104.2	105.8	107.3								
1人あたりGDP(ドル)	3,011	3,129	3,349								
実質GDP成長率(前年比、%)	(6.9)	(6.3)	(6.0)	(6.3)	(6.7)	(▲0.7)	(▲16.5)				
製造業生産指数(前年比、%)	(11.3)	(7.1)	(▲8.4)	(▲9.2)	(▲6.6)	(1.1)	(▲28.8)	(▲28.5)	(▲19.3)		
国内自動車販売(台)	425,673	357,410	399,911	102,062	109,552	64,542	20,499	4,788	15,578	20,542	
(前年比、%)	(18.4)	(▲16.0)	(11.9)	(14.1)	(13.7)	(▲31.2)	(▲78.3)	(▲85.7)	(▲55.6)	(▲40.5)	
消費者物価指数(前年比、%)	(2.9)	(5.2)	(2.5)	(1.7)	(1.5)	(2.7)	(2.3)	(2.1)	(2.5)	(2.7)	
輸出(FOB)(100万ドル)	68,713	69,307	70,927	18,634	17,715	15,732	12,749	4,534	5,381		
(前年比、%)	(19.7)	(0.9)	(2.3)	(2.2)	(6.2)	(▲5.1)	(▲29.2)	(▲26.9)	(▲12.5)		
輸入(CIF)(100万ドル)	96,093	112,841	111,593	28,689	27,902	23,261	15,894	5,855	6,757		
(前年比、%)	(14.2)	(17.4)	(▲1.1)	(▲4.0)	(▲4.9)	(▲13.6)	(▲43.4)	(▲40.6)	(▲23.1)		
貿易収支(100万ドル)	▲27,380	▲43,533	▲40,666	▲10,055	▲10,187	▲7,529	▲3,145	▲1,321	▲1,375		
経常収支(100万ドル)	▲2,143	▲8,773	▲464	333	748	92					
外貨準備高(除く金)(100万ドル)◎	73,233	71,040	79,824	77,566	79,824	80,846	85,454	85,272	85,454	85,404	
TBレート金利◎	n.a.	5.36	3.19	3.09	3.19	3.02	1.98	2.23	1.98	1.52	1.15
為替(ペソ/ドル)*	50.40	52.66	51.80	51.77	51.00	50.83	50.46	50.56	50.10	49.47	48.84
株価指数◎	8,558.4	7,466.0	7,815.3	7,779.1	7,815.3	5,321.2	6,207.7	5,838.8	6,207.7	5,928.5	5,884.2

(注)*: 期中平均値、◎: 期末値。

(資料) フィリピン国家統計局、中央銀行、IMF、CEIC等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. シンガポール

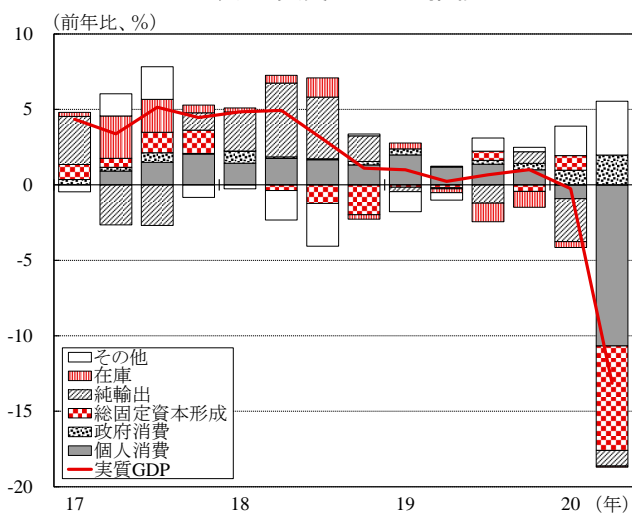
4-6月期の実質 GDP 成長率（改定値）は前年比▲13.2%

4-6月期の実質GDP成長率（改定値）は前年比▲13.2%と、現行統計で遡れる1976年以降で最大の落ち込みとなった速報値（前年比▲12.6%）から更に下方修正された。内需は、政府消費の伸びが加速したものの、個人消費や総固定資本形成が共に同約3割のマイナスとなった。外需も、輸出の減少を主因に純輸出の寄与が引き続きマイナスだった。政府は8月、今年の実質GDP成長率の予想について、新型コロナウイルスの感染拡大による悪影響を勘案し、従来の同▲4.0～▲7.0%（5月時点）から同▲5.0～▲7.0%に下方修正した。

7月の非石油地場輸出は前年比+6.0%の増加

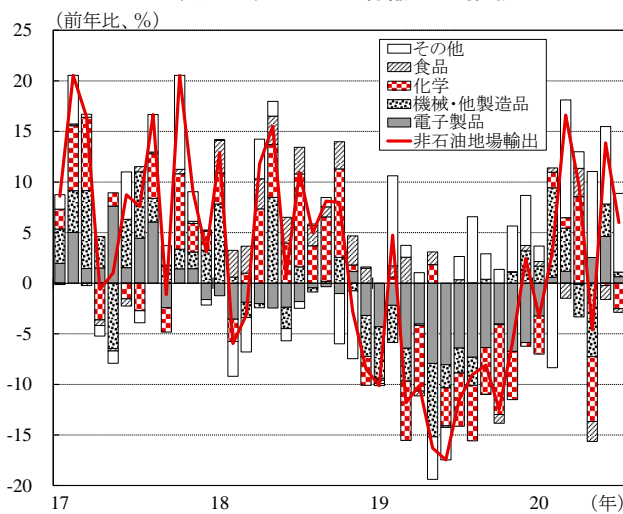
7月の非石油地場輸出は前年比+6.0%と前月から伸びが鈍化したものの、2ヵ月連続の増加となった。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大等を背景に、安全資産として需要の高まった非貨幣金が同+228%と急増したことが主因であるが、主力のエレクトロニクスもプラスを維持した。仕向け地別にみると、中国やアジア域内、EU向けは減少した一方、米国・日本向けが増加した。

図表 1: 実質 GDP の推移



(資料)シンガポール貿易産業省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

図表 2: 非石油地場輸出の推移



(資料)シンガポール国際企業庁統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

シンガポールの主要経済指標

	2017	2018	2019	19/7-9	10-12	20/1-3	4-6	20/5	6	7	8
名目GDP(10億ドル)	342	373	372								
人口(100万人)	5.61	5.64	5.70								
1人あたりGDP(ドル)	60,924	66,175	65,239								
実質GDP成長率(前年比、%)	(4.3)	(3.4)	(0.7)	(0.7)	(1.0)	(▲0.3)	(▲13.2)				
鉱工業生産指数(前年比、%)	(10.4)	(7.0)	(▲1.5)	(▲1.2)	(▲4.0)	(7.9)	(▲0.7)	(▲8.2)	(▲6.5)	(▲8.4)	
小売売上高指数(前年比、%)	(1.8)	(▲0.8)	(▲2.8)	(▲2.6)	(▲4.1)	(▲9.2)	(▲40.3)	(▲52.0)	(▲27.8)		
消費者物価指数(前年比、%)	(0.6)	(0.4)	(0.6)	(0.4)	(0.6)	(0.4)	(▲0.7)	(▲0.8)	(▲0.5)	(▲0.4)	
輸出(FOB)(100万ドル)	515,001	555,665	532,514	134,043	137,651	126,771	113,627	35,462	39,657	41,804	
(前年比、%)	(10.3)	(7.9)	(▲4.2)	(▲7.3)	(▲4.3)	(▲1.4)	(▲14.0)	(▲24.0)	(▲4.3)	(▲7.9)	
輸入(CIF)(100万ドル)	452,102	500,194	489,712	122,479	126,353	121,090	102,467	31,461	35,127	37,868	
(前年比、%)	(12.1)	(10.6)	(▲2.1)	(▲5.9)	(▲6.3)	(2.6)	(▲16.6)	(▲26.2)	(▲9.9)	(▲9.9)	
貿易収支(100万ドル)	62,899	55,471	42,802	11,564	11,298	5,681	11,160	4,001	4,529	3,936	
経常収支(100万ドル)	76,780	86,480	86,132	24,195	19,601	15,986	17,966				
外貨準備高(除く金)(100万ドル)	279,690	287,466	279,240	272,029	279,240	278,935	312,286	300,781	312,286		
SIBOR3カ月(ドル、%)◎	1.50	1.89	1.77	1.88	1.77	1.00	0.56	0.56	0.56	0.44	0.41
為替(ドル/USドル)*	1.381	1.349	1.364	1.375	1.363	1.386	1.412	1.418	1.394	1.387	1.369
株価指数◎	3,402.9	3,068.8	3,222.8	3,120.0	3,222.8	2,481.2	2,589.9	2,510.8	2,589.9	2,529.8	2,532.5

(注)*印:期中平均値、◎印:期末値。

(資料)シンガポール統計局、CEIC等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

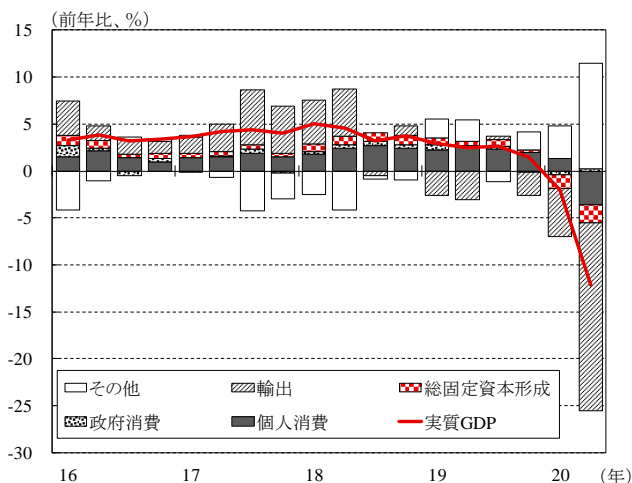
5. タイ

4-6 月期の実質 GDP 成長率は前年比▲12.2%と大幅減

4-6 月期の実質 GDP 成長率は、前年比▲12.2%とアジア通貨危機時以来となる 22 年ぶりの二桁のマイナス成長を記録した。需要項目別の内訳をみると、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により輸出が同▲28.3%と大幅減となったことに加え、個人消費も感染抑制を目的とした公衆衛生措置の実施等により、同▲6.6%と約 6 年ぶりのマイナスとなり全体を押し下げた。

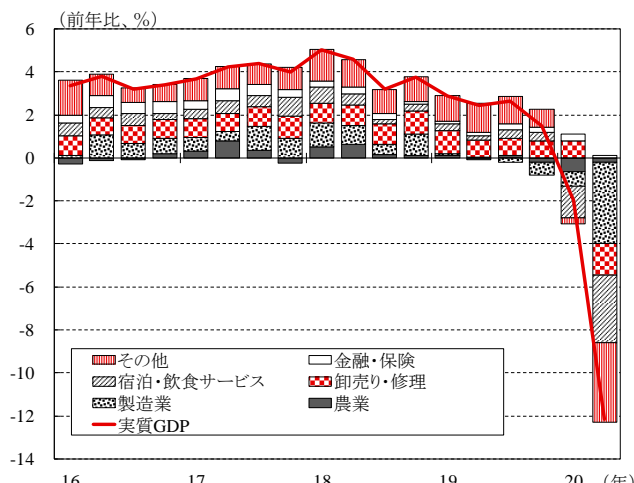
業種別にみると、金融・保険は同+1.7%とプラスを維持したものの、農業、製造業、卸売り・修理、宿泊・飲食サービスはすべてマイナスとなった。特に感染拡大の影響を大きく受けた宿泊・飲食サービスは同▲50.2%と大幅に減少した。

図表 1：実質 GDP の推移（需要項目別）



(資料) タイ国家経済社会開発局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

図表 2：実質 GDP の推移（業種別）



(資料) タイ国家経済社会開発局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

タイの主要経済指標

	2017	2018	2019	19/7-9	10-12	20/1-3	4-6	20/5	6	7	8
名目GDP (10億ドル)	457	507	544								
人口(100万人)	66.2	66.4	66.6								
1人あたりGDP (ドル)	6,898	7,628	8,169								
実質GDP成長率(前年比、%)	(4.1)	(4.2)	(2.4)	(2.6)	(1.5)	(▲1.8)	(▲12.2)				
製造業生産指数(前年比、%)	(1.8)	(3.6)	(▲3.6)	(▲4.2)	(▲6.8)	(▲6.4)	(▲20.0)	(▲23.8)	(▲17.8)	(▲14.7)	
民間消費指数(前年比、%)	(3.3)	(4.7)	(2.4)	(1.3)	(1.8)	(0.4)	(▲8.7)	(▲10.1)	(▲2.9)	(▲0.9)	
自動車販売台数(台)	871,647	1,041,739	1,007,552	238,077	245,705	200,064	128,540	40,418	58,013	59,335	
(前年比、%)	(13.4)	(19.5)	(▲3.3)	(▲7.5)	(▲16.8)	(▲24.1)	(▲50.6)	(▲54.1)	(▲32.6)	(▲26.8)	
消費者物価指数(前年比、%)	(0.7)	(1.1)	(0.7)	(0.6)	(0.4)	(0.4)	(▲2.7)	(▲3.4)	(▲1.6)	(▲1.0)	(▲0.5)
失業率(%)*	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0	1.1	2.0		2.0		
輸出(FOB) (100万ドル)	233,688	251,108	242,981	63,144	58,977	60,867	49,787	15,853	16,071	18,498	
(前年比、%)	(9.5)	(7.5)	(▲3.2)	(▲0.3)	(▲5.2)	(1.4)	(▲17.8)	(▲23.6)	(▲24.6)	(▲11.9)	
輸入(FOB) (100万ドル)	201,107	228,720	216,351	55,089	53,008	52,817	41,746	12,661	13,751	14,385	
(前年比、%)	(13.2)	(13.7)	(▲4.4)	(▲7.2)	(▲8.0)	(▲1.0)	(▲23.4)	(▲34.2)	(▲18.2)	(▲25.4)	
貿易収支(100万ドル)	32,581	22,388	26,630	8,055	5,969	8,050	8,042	3,192	2,320	4,113	
経常収支(100万ドル)	43,952	28,457	37,308	9,789	10,708	8,917	▲837	64	▲247	1,787	
資本収支(100万ドル)	▲12,498	▲14,948	▲12,598	▲1,140	▲6,222	▲6,903	11,441	2,287	2,650	112	
対外債務残高(100万ドル)◎	155,225	162,376	172,135	167,190	171,358	165,490					
外貨準備高(除く金)(100万\$)◎	196,121	199,296	216,821	213,249	216,821	218,697	232,771	228,697	232,771	240,583	
翌日物レボ金利(%)◎	1.50	1.75	1.25	1.50	1.25	0.75	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
為替(パーツ/ドル)*	33.93	32.32	31.04	30.70	30.27	31.29	31.93	32.02	31.15	31.43	31.22
株価指数◎	1,753.7	1,563.9	1,579.8	1,637.2	1,579.8	1,125.9	1,339.0	1,342.9	1,339.0	1,328.5	1,310.7

(注)*印:期中平均値、◎印:期末値、輸出入および貿易収支は国際収支ベース。

(資料)タイ中央銀行、国家経済社会開発委員会、CEIC等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. ベトナム

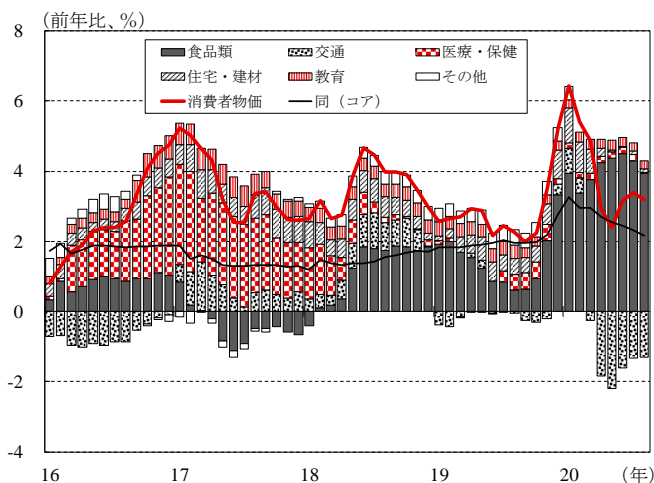
8月の消費者物価上昇率は前年比+3.2%と鈍化

8月の消費者物価上昇率は前年比+3.2%と前月（同+3.4%）から伸びが鈍化した。品目別にみると、食品類は8月上旬に上陸した台風の影響で、野菜の価格が上昇したこと等を受けて、同+11.8%と二桁の伸びが続いたものの、交通はコロナ禍を受けた原油価格の下落を背景に大幅なマイナスが続いている。コアインフレ率（変動の大きい食品や燃料、政府が価格を統制している医療や教育関連を除く）は、同+2.2%と低位安定している。

8月の鉱工業生産は前年比▲0.6%とマイナス転化

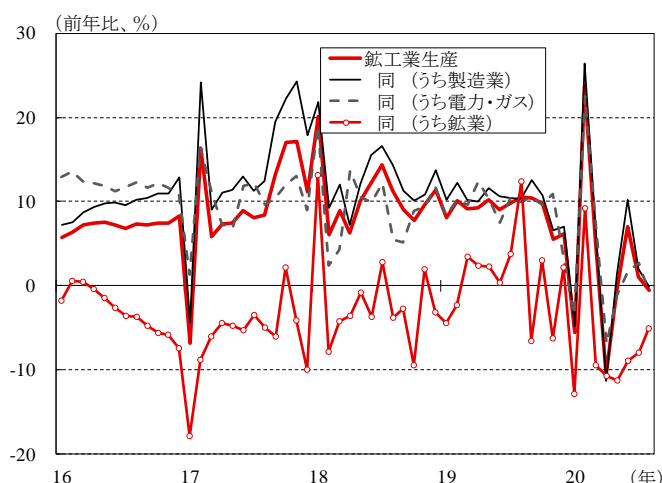
8月の鉱工業生産は前年比▲0.6%と前月（同+1.1%）からマイナス転化した。内訳をみると、鉱業が同▲5.1%（前月：同▲7.9%）とマイナス幅が縮小したものの、電力・ガスが同▲0.7%（前月：同+2.7%）、製造業が同▲0.1%（前月：同+2.1%）とマイナスに転じた。

図表 1：消費者物価の推移



(注) 2020年8月から基準変更。
(資料) ベトナム統計総局、中銀統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

図表 2：鉱工業生産の推移



(注) 2018年から基準変更。
(資料) ベトナム統計総局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ベトナムの主要経済指標

	2017	2018	2019	19/7-9	10-12	20/1-3	4-6	20/5	6	7	8
名目GDP(10億ドル)	224	245	262								
人口(100万人)	94.3	95.4	96.5								
1人あたりGDP(ドル)	2,373	2,571	2,715								
実質GDP成長率(前年比、%)	(6.8)	(7.1)	(7.0)	(7.5)	(7.0)	(3.7)	(0.4)				
鉱工業生産(前年比、%)	(7.5)	(10.2)	(9.1)	(10.2)	(7.4)	(5.6)	(0.1)	(▲0.4)	(7.0)	(1.1)	(▲0.6)
国内自動車販売(台)	250,612	276,234	305,786	73,249	86,833	50,177	52,711	18,571	23,324	23,368	
(前年比、%)	(▲7.8)	(10.2)	(10.7)	(15.8)	(▲3.4)	(▲31.5)	(▲27.2)	(▲28.8)	(▲11.0)	(▲9.5)	
消費者物価指数(前年比、%)	(3.5)	(3.5)	(2.8)	(2.2)	(3.7)	(5.6)	(2.8)	(2.4)	(3.2)	(3.4)	(3.2)
輸出(FOB)(100万ドル)	215,119	243,697	264,267	72,087	69,618	63,307	59,334	19,186	22,565	24,873	26,500
(前年比、%)	(21.8)	(13.3)	(8.4)	(10.5)	(8.5)	(7.6)	(▲6.9)	(▲12.3)	(5.3)	(8.5)	(2.5)
輸入(CIF)(100万ドル)	213,007	236,869	253,393	66,530	66,018	59,328	57,411	18,176	20,713	22,097	23,000
(前年比、%)	(21.9)	(11.2)	(7.0)	(7.3)	(3.5)	(3.4)	(▲9.5)	(▲21.2)	(6.4)	(▲2.5)	(2.8)
貿易収支(100万ドル)	2,112	6,828	10,874	5,557	3,599	3,979	1,922	1,010	1,852	2,776	3,500
経常収支(100万ドル)	▲1,649	5,899	13,101	5,919	5,219	4,153					
外貨準備高(除く金)(100万ドル)◎	49,076	55,453	78,335	69,187	78,335	81,679		83,222	83,747		
リファイナンスレート◎	6.25	6.25	6.00	6.00	6.00	5.00	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50
為替(ドン/ドル)*	22,718	23,032	23,231	23,214	23,193	23,264	23,333	23,338	23,216	23,180	23,167
株価指数◎	984.24	892.54	960.99	996.56	960.99	662.53	825.11	769.11	864.47	825.11	798.39

(注)*印：期中平均値、◎印：期末値。

(資料) ベトナム統計総局、中央銀行、IMF、CEIC等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. インド

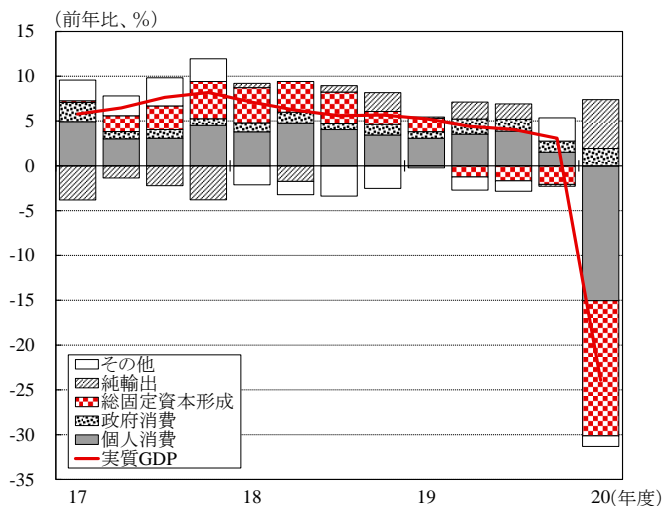
4-6 月期の実質 GDP 成長率は前年比▲23.9%と大幅に減少

4-6 月期の実質 GDP 成長率は前年比▲23.9%と大幅に減少し、現行統計で遡れる 1997 年以降で初めてマイナスとなった。内需は、政府消費が同+16.4%と前期から伸びが加速したものの、新型コロナウイルスの感染拡大抑止のための厳格な行動制限を受け、個人消費が同▲26.7%と大幅に減少したほか、総固定資本形成（同▲47.1%）のマイナス幅が拡大した。外需は、輸入の減少を主因に、純輸出の寄与がプラス転化した。

7 月の乗用車販売台数は前年比▲3.9%と減少

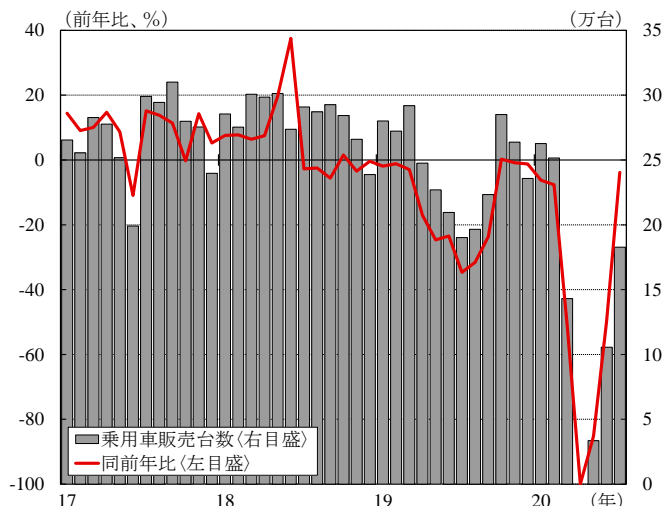
7 月の乗用車販売台数は前年比▲3.9%と前月からマイナス幅が縮小したものの、9ヵ月連続の前年割れとなった。インド自動車工業会は、乗用車販売に回復の兆しがみられることを指摘しつつも、先行きは予断を許さない状況であるとの見方を示している。

図表 1：実質 GDP の推移



(資料) インド中央統計局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

図表 2：乗用車販売台数の推移



(資料) インド自動車工業会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

インドの主要経済指標

	17年度	18年度	19年度	19/7-9	10-12	20/1-3	4-6	20/5	6	7	8
名目GDP(10億ドル)	2,653	2,713	2,868								
人口(100万人)	1,314	1,327	1,341								
1人あたりGDP(ドル)	2,019	2,045	2,139								
実質GDP成長率(前年比, %)	(7.0)	(6.1)	(4.2)	(4.4)	(4.1)	(3.1)	(▲23.9)				
鉱工業生産指数(前年比, %)	(4.4)	(3.8)	(▲0.8)	(▲0.4)	(▲1.4)	(▲4.3)	(▲35.9)	(▲33.9)	(▲16.6)		
乗用車販売台数(台)	3,288,581	3,377,450	2,735,824	609,956	784,586	657,244	139,163	33,546	105,617	182,779	
(前年比, %)	(7.9)	(2.7)	(▲19.0)	(▲30.0)	(▲0.6)	(▲22.1)	(▲79.7)	(▲85.2)	(▲49.6)	(▲3.9)	
卸売物価指数(前年比, %)	(2.9)	(4.3)	(1.7)	(0.9)	(1.1)	(2.1)	(▲2.3)	(▲3.4)	(▲1.8)	(▲0.6)	
消費者物価指数(前年比, %)	(3.6)	(3.4)	(4.8)	(3.5)	(5.8)	(6.7)	(6.6)	(6.3)	(6.2)	(6.9)	
輸出(100万ドル)	303,373	330,079	313,222	78,332	79,053	74,938	51,318	19,054	21,908	23,640	
(前年比, %)	(10.3)	(8.8)	(▲5.1)	(▲3.8)	(▲1.9)	(▲12.9)	(▲36.6)	(▲36.2)	(▲12.4)	(▲10.2)	
輸入(100万ドル)	464,713	514,050	472,582	117,307	116,104	109,811	60,437	22,202	21,114	28,470	
(前年比, %)	(20.9)	(10.6)	(▲8.1)	(▲11.8)	(▲11.2)	(▲9.8)	(▲53.3)	(▲52.4)	(▲47.6)	(▲28.4)	
貿易収支(100万ドル)	▲161,340	▲183,971	▲159,361	▲38,975	▲37,051	▲34,873	▲9,119	▲3,147	793	▲4,830	
経常収支(100万ドル)	▲48,661	▲57,180	▲24,550	▲7,553	▲2,605	584					
外貨準備高(除く金)(100万ドル)	403,751	390,268	447,527	407,452	432,378	447,527	472,094	460,964	472,094		
レボレート(%)◎	6.00	6.25	4.40	5.40	5.15	4.40	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
為替(ルピー/ドル)*	64.46	69.93	70.90	70.42	71.24	72.41	75.89	75.68	75.75	74.97	74.63
株価指数◎	32,969	38,673	29,468	38,667	41,254	29,468	34,916	32,424	34,916	37,607	38,628

(注)*印: 期中平均値、◎印: 期末値。『乗用車販売台数』は、ユティリティ車、多目的車を含む。

(資料) RBI、中央統計局、CEIC等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 高瀬 将平 shiyuhei_takase@mufg.jp

鷹巣 里奈 rina_takasu@mufg.jp

シンガポール駐在 土屋 祐真 yuma_tsuchiya@sg.mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。